

# 景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

## 各業種で悪化割合が増加し、 製造業、非製造業ともに景況DI値は後退

### 【概況(全体)】

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.3%(前回調査6.3%)、「悪化」が56.3%(同50.0%)で、業界全体のDI値は-50.0となり、前月調査と比較し6.3ポイント下回った。製造業、非製造業とも前月に引き続き、全国及び東北・北海道ブロックを下回ったことで、業界全体の景況DI値についても低調に推移することとなった。

### 【業界別の状況】

繊維工業や卸売業など、製造業、非製造業の各業種で悪化割合が増加し、全体の景況DI値が悪化した。今月は特に売上高DI値の数値が著しく悪化した。暖冬の影響を受けて、衣料品や家電、一部地域のホテル・旅館等は例年に比べ、売上が減少している。加えて、新型コロナウイルスの発生は多くの業種に影響を与えており、経済活動の停滞につながる懸念がある。業種を問わず、人手不足の影響が大きくなってきており、受注・収益に留まらず、事業継続にも大きな影響を与える懸念がある。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-50.0	-40.2	-41.7
製 造 業	-53.1	-43.4	-43.8
非製造業	-47.9	-37.8	-40.5

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 くもり △10以上 △30未満  
 雨 △10未満  
 雷雨 △30以下

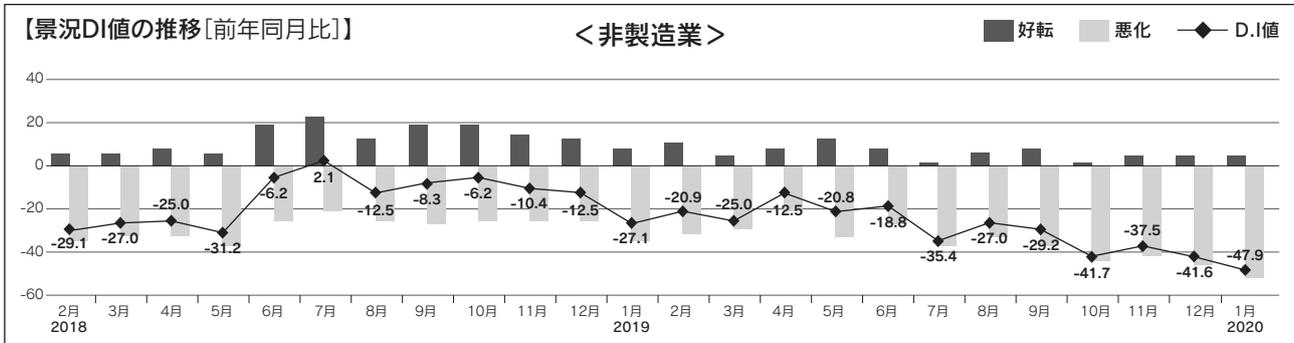
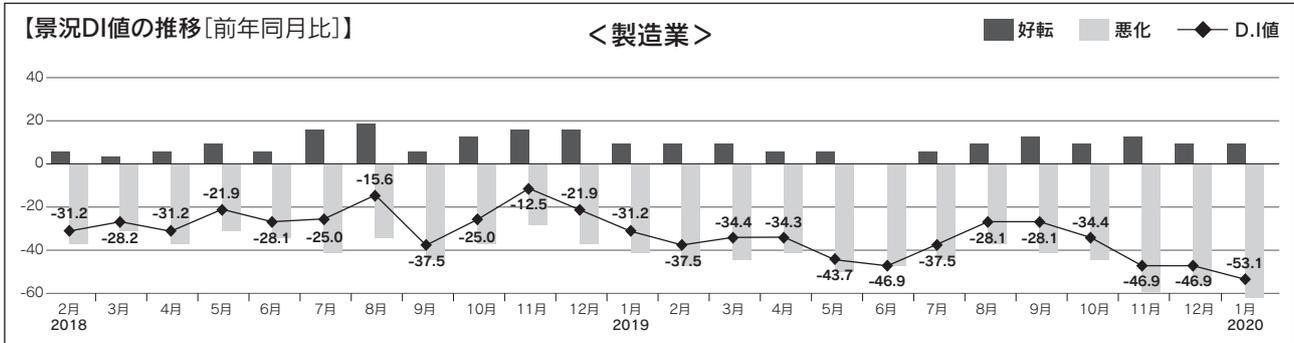
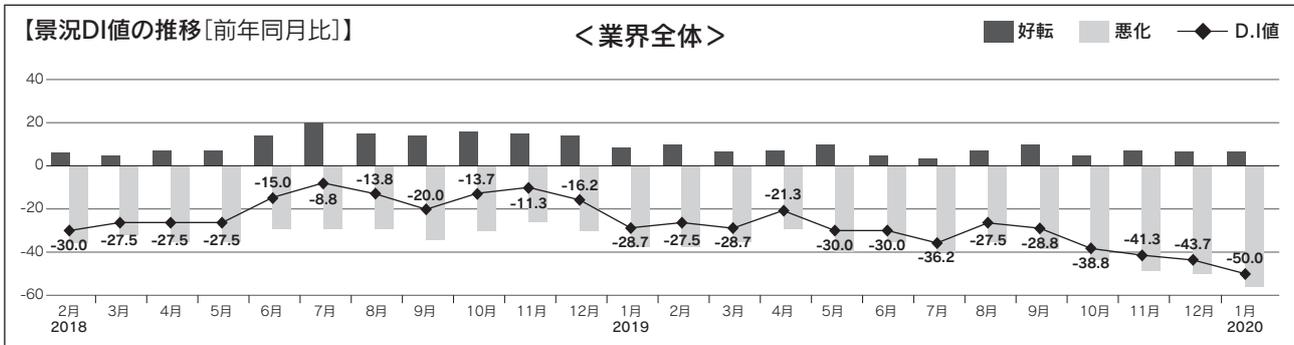
【天気図の見方】  
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (パ ン)	元日に県内大手スーパーが休業したことで納入業者の売上が減少した。正月以降も消費が回復せず、売上不振が続いている。
食 料 品 (精穀・製粉)	1月は閑散期であるが、今年は季節商品の動きも良くなかった。消費税増税後、消費者の節約志向が一段と高まった感がある。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	春夏物の生産時期になり、各社ともに前年並みの受注は確保している。ただし、アパレルメーカーが暖冬と消費税増税による売上不振のため在庫を抱えており、シーズン終盤まで前年並みの発注が続くかは不透明である。一部で新型コロナウイルス発生によって中国生産スケジュールが未定となっているため、国内工場の生産確保の打診も始まっている。
織 維 工 業 (織 維)	消費税増税後、市況は思わしくなく、全体的に仕事量が減少傾向にあり、最低賃金の上昇に伴い、経営環境は悪化する一方である。
木材・木製品 (一般製材)	価格が原木高、製品安の状況が続き、資金繰りに支障が生じている。
木材・木製品 (素材生産)	一般製材用原木の生産量は、雪が少なく、予定していた箇所で搬出ができないため、急遽搬出箇所を変更した影響で生産量が減少し、価格は値上がり傾向にある。
印 刷	年間を通じ売上が低調な時期であるが、仕事の全体量が減っているため、いつも以上に落ち込みが激しい。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	1月の出荷数量は前年同月比106.3%、4月～1月累計で93.2%となった。今年度は出荷量想定623,000㎡(前年比93.09%)にほぼ落ち着くものと思われる。ただ、来年度は各地区からの出荷量想定が572,000㎡(出荷量想定比91.8%)と非常に厳しい状況にある。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	例年この時期は見積依頼が減少傾向にあるが、今年は比較的大小にかかわらず、見積件数は増加している。しかし、受注には結びついていない状況にあり、稼働率の高い工場と低い工場でのバラつきが出ている。
一 般 機 器 (金属加工)	受注については依然として厳しい状況が続いており、先の見通しも不透明である。受注が少ないことから中堅クラスの事業所は、下請けに出さず自社製造が多くなってきている。原材料価格は大きな変化は見られない。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	メーカーの需要を上回るペースで市中からの出荷が進んだことで、鉄価格は今月1,500円/t値を下げた。
小売業 (ポイントカード)	年明けから来店者数が減少している。暖冬で冬物衣料等の売上にも悪影響が出ている。
小売業 (花卉)	卸や仲卸などは、辛うじて前年同月を上回った売上・買上額となっているが、仕入値が高値安定で推移しており、消費者の購買意欲は低調なままである。
商店街	暖冬で人通りは例年より若干多い感じではあるが、各商店の売上額はほとんどの業種で対前年比で減少した。(秋田市)  飲食店は帰省客消費、小売店は年始サービスなどで若干の売上貢献を得ている。卸売業は取引条件が一段と厳しくなり、人件費の抑制、経費節減等で凌いでいる。商店街全体では、人口減少と後継者不足の影響が響いてきている。(湯沢市)
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績は、全体では前年同月比で4.4%の増加となり、内訳では登録車が0.2%の減少、軽自動車は10.2%の増加となった。10月以降検査台数が前年同月比で減少となっていたが、1月は軽自動車の大幅な増加により全体でも増加となった。
サービス業 (タクシー)	積雪時に自動車運転を自粛するタクシー利用客も、暖冬による積雪の少なさから運転をしたようである。また、自転車での移動も多く見受けられた。加えて、大きなイベントもなく、人々の往来は少なく利用客は少なかった。
建設業 (管工事)	例年にない暖冬で除雪等諸経費の節減が図られている。一方、水道管凍結等小破修繕はなく、今後厳しい状況が見込まれる。(県北地区)
建設業 (電気工事)	暖冬の影響で受注量増加を期待していたが、工事高は低迷している。(県南地区)
運輸業 (トラック)	荷動きが非常に悪かった。軽油価格は高値が続いていたが、下旬になり値下がり傾向に転じた。